

令和7年度 那覇市立教育研究所運営審議会（議事録）

開催日時：令和7年6月13日（金） 15:30～17:00

開催場所：那覇市立教育研究所 2F 会議室

出席者：

〔運営審議会委員〕

会長：上江洲朝男委員

委員：喜屋武正勝委員、加藤司委員、善国道太委員、森山涼子委員、新川美紀委員、上江洲卓委員、
仲間亜矢委員、山内淳子委員

〔事務局〕

教育研究所：棚原所長、下地指導主事、砂川指導主事、松茂良指導主事、鶴澤指導主事

学務課（学校支援室）：平良主幹、玉盛主査、富山主査

〔主な日程〕

- ・委嘱状及び任命状交付（委嘱状：加藤司委員、山内淳子委員、善国道太委員）
（任命状：新川美紀委員、上江洲卓委員、仲間亜矢委員）
- ・会長選出（上江洲朝男委員）
- ・報告（1）令和7年度教育研究所運営方針
（2）令和6年度教育研究所実施事業及び令和7年度事業計画
- ・協議「今後の教育研究所に望まれること」

○上江洲会長

会議の公開に関する実施方針に基づき、本審議会を公開することに異議ありませんか。

●全委員

異議なし

～報告事項(1)・(2)及び協議事項を受け、質疑応答に入る～

〔質疑応答〕

○森山委員

現在、ICT機器、特にタブレット端末のメンテナンスが不十分である。卒業生が使用した機器を1年生が使用していることもあり、キーボード等の破損が目立つ。保護者から修理の要望も寄せられており、調査の結果、1学級あたり4～5台が故障している状況が明らかになった。メンテナンス体制の強化が求められる。また、議会からも同様の声が多数挙がることが予想される。CanvaやNotebook LM等のツールについて、教員研修を実施し、教員自身が活用しながら児童生徒のスキル向上を図れ

るよう支援してほしい。

●平良主幹

現在、修理要望は約 1,400 件にのぼっているが、予備機の確保が困難な状況である。限られた予算の中、部品を再利用して機器を整備しており、余剰予算を活用して予備機 250 台を確保した。今後はさらに台数を増やす方針である。

○上江洲会長

ICT の活用においては、端末の使用により学びの格差が生じる可能性が懸念されている。

○加藤委員

タブレットは何を使用しているか。

●平良主幹

Google の Chromebook を使用している。

○加藤委員

同時接続をすると、通信状況は本市ではどうなったか

●玉盛主査

現在使用している端末については「Google Chromebook」であるが、同時接続時の通信環境に関しても検証が必要である。学校によって通信の安定性に差があり、一斉アクセス時に接続が困難となるケースも報告されている。本市として、今年度中に聞き取り等を通じた再調査を行う予定である。

○加藤委員

本市の ICT 活用実態の把握が必要である。教員の活用状況やリテラシーについて、全国的には検索やプレゼンに限定された使用が多い。これを踏まえて研修の方向性を見直す必要がある。

●平良主幹

授業で週 3 回使っている小中学校は半数。使い方についてはわからないので、調査が必要。

○加藤委員

授業で週 3 回程度使用している学校もあるが、具体的な活用方法が十分に把握されていない。プレゼンや発表用途にとどまっており、より深い学習活動への活用が求められる。思考力・判断力・表現力を高める視点からの研修が重要である。他市では教員と児童生徒の ICT に対する認識に乖離が見られた事例もあった。

○上江洲会長

働き方改革と授業準備時間は分けて考えるべきである。授業準備の負担軽減が十分に図られていないとの指摘がある。本市や本県の調査結果を知りたい。

○新川委員

Canva の活用については学校により差がある。前任校では児童が委員会活動で活用していたが、現任校では教員の利用も検索レベルにとどまっている。

学校間の格差が大きく、中学校進学後にその差が顕在化する恐れもある。情報リテラシーの高い教員に依存する傾向があるため、育成と校内ミニ研修の実施が必要である。

○上江洲会長

使用頻度ではなく、どのように使っているかに着目した研修が必要である。

●富山主査

本市は、苦手な分野や活用されている分野を調査している。指導力の各差は、学校間である。指導力の底上げを狙って、研修の方向性を検討している。

●棚原所長

情報教育担当者対象以外にも、Google for Education 等の希望者を対象とした研修・講座があるが、個別申し込み形式では参加希望者は少ない状況である。

○上江洲会長

校長研修会等で、校内で研修をすることを呼びかけては。

○森山委員

昨年度より研修の実施数も増加しており、改善の兆しが見られる。

●棚原所長

ICT 支援員を活用した校内研修があるが、情報教育担当教員のみで研修を計画することは負担が大きいという声もある。研究主任との連携体制の構築が望まれる。また、実践事例は ICT 情報教育指導員（8名）の那覇市 ICT 情報教育推進部会実践事例サイトで共有している。

○加藤委員

他町の DX 事例では、ツールの活用そのものではなく、授業設計と連動させた活用がなされていた。本市においても授業設計モデルの提示等、共通化を図ってはどうか

○上江洲委員

一斉授業からの転換が十分に進んでいない。個別最適な学びも、実際には振り返りや補充問題程度の活用にとどまっている。本県のオープンアカウントと本市のアカウントの使い分けが難しく、異動時のデータ移行にも課題がある。補充教員の確保も困難な状況であり、安心して研修が受けられる環境整備が求められる。

○加藤委員

公務 DX の難しさ（課題）は？資料が整理されていない等、引き継ぎの難しさではないか。

○上江洲会長

公務 DX においては、資料やデータの整理・引き継ぎに課題がある。

○仲間委員

Share のファイルが多く、データの容量が大きい状況がある。

○上江洲会長

過去には、デスクトップ上に約 50 のフォルダを設け、期限を設定して整理を促進した事例もあった。

○加藤委員

階層構造で分けるようにする等、フォルダの整理の仕方。USB を使用するとセキュリティ的に問題も起こる。

○上江洲会長

研修で呼ばれたときに、データを送信できずに困ることがある。

●平良主幹

データセンターにフォルダを格納するサーバーがある。ルールを決めて、先生方が階層分けして整理できるようにしていきたい。

○新川委員

学校ごとに整理方法が異なるため、異動時に必要なデータが見つけにくいという課題がある。何年間分を保管すべきか等、整理ルールの明確化が望まれる。

○上江洲会長

ルールがあるとよい。

●平良主幹

階層分けの例等、検討していく。

○新川委員

Canva のアカウントをとるとき、リセットされてしまうことがある。学校長の免許状でやればいいことを周知した方がよい。

●富山主査

現在は、各学校ごとに Canva の申請をしているが、本市の Google アカウントで申し込めるようにしていくことを検討している。現在のアカウントをそのまま使えるようにする。

○上江洲会長

時間になりましたので、協議を終了いたします。みなさん、お疲れ様でした。